

## 「2号機中央制御室空調換気系ダクト腐食等に係る住民説明会（境港市）」議事概要

1. 日 時 平成30年3月1日（木）19時00分～20時40分
2. 場 所 境港シンフォニーガーデン
3. 出席者（来場者）26名  
（当 社）  
取締役常務執行役員 島根原子力本部長 岩崎 昭正  
島根原子力発電所長 山本 直樹 他

### 4. 資 料

- ・「島根原子力発電所2号機 中央制御室空調換気系ダクトの腐食」
- ・「島根原子力発電所2号機 新規制基準への適合性審査の状況」

### 5. 概 要

- ・島根原子力発電所2号機 中央制御室空調換気系ダクトの腐食説明
- ・島根原子力発電所2号機 新規制基準への適合性審査の状況説明
- ・質疑応答

主な質疑応答については以下のとおり。

《中央制御室空調換気系ダクトの腐食に関する質疑応答》

- Q. ダクトの腐食の件、このような大きさの穴が短期間で発生したものではないと思うが、いつ頃から腐食が発生していたと考えているか。また、保守点検のための点検計画表があると思うが、途中の点検が疎かになっていたということはないか。
- A. 今回の腐食部分は、通常は保温材に覆われており外観からは見えない部分である。外面から点検は行っていたが、内面からは見ていなかったためこのような腐食となった。  
空調換気系の運用開始以降、内面に水分、塩分の影響により徐々に腐食が進行していったものと考えている。今回、内面に結露があると腐食が発生する可能性があることが分かったため点検を見直すこととした。
- Q. 保守点検の見直しで、頻度を変更するとのことであるが根拠はどうか。
- A. 点検頻度の変更の根拠であるが、内部点検については、外気取り入れ部は1サイクル/回で点検する。なお、過去の経験上、1サイクル以内で穴が開くことはないと考えている。外気取入れライン以外については、今回腐食は見られなかったが、念のため隔離弁の点検頻度に合せて6サイクル/回の頻度で点検することとした。

Q. ダクト仕様の見直しについて、現在は、既存のダクトにとりあえず交換しているということであるが、対策を施すことでどの程度の効果が期待できるのか。効果は永久か。

A. 材質変更について、亜鉛メッキ鋼およびステンレス鋼を使用していたが、ステンレス鋼では小さな穴が開き腐食の検出ができないことが分かったので、塗装した炭素鋼と亜鉛メッキ鋼を使用することにした。  
今回の対策は永久の対策ではなく、鋼板に腐食が見られれば早めに交換する等の対応を行う。

《新規制基準への適合性審査の状況説明に関する質疑応答》

Q. 審査状況の説明において、海底の3つ断層は別の断層であるが連動するとの前提で評価しているが、一方で、宍道断層と鳥取沖西部沖断層は別々の断層であり連動しないとの説明があった。考えの違いを説明いただきたい。

A. F-Ⅲ、F-Ⅳ、F-Ⅴの断層はそれぞれ独自の断層と考えているが、間の測線が少なく断層が近接しているため、念のため連動すると評価している。

一方、宍道断層と鳥取沖西部断層については、まず、2つの断層間で複数の音源、測線による音波探査を行い後期更新世以降の活動がないことを確認している。

2つ目に、2つの断層の間には地層の高まりがあり、2つの断層が連続するような構造がない。

3つ目に、宍道断層から鳥取沖西部断層に繋がるような重力異常が認められない。このようなことを以て宍道断層と鳥取沖西部断層は連動しないと評価している。

Q. 審査状況の説明について、基準地震動を600ガルから820ガルに見直されたが、見直しまでも耐震裕度向上工事を行っていたとの記載があるが、どのような条件で行っていたか。

A. 従来の基準地震動S1、S2に対し、バックチェックと言われる新しい知見に基づく見直しを行っており、安全性を高める工事を行っていた。  
この工事はある程度余裕を持って対応している。

Q. 耐震裕度向上工事は600ガルの時点から行っているとのことであるが、600ガルで満足しないから行っていたのか、増えても余裕があるように前もって実施していたのか。その場合何ガルまで余裕を持たせていたか。

A. 新しい規制基準ができる前は、600ガルに耐えられるような対策であった。  
新規制基準のできた後は、耐震対策を先取りしたものにおいては、かなりの裕度を持った対策をしている。具体的には、1000ガル程度に耐えられるような対策である。

Q. 宍道断層は最初22 kmから39 kmに変わっているがなぜそうなったか。

A. 申請し審査を受ける過程で、新たな知見、国の機関の調査等を踏まえて調査を行ったうえで評価し、国の審査を受けて39 kmとしている。

Q. 「現在39 kmである」ということで良いか。

A. 現時点では39 kmと評価している。今後、国等から新たな知見があればそれを踏まえて評価を行っていく。

Q. 宍道断層と鳥取沖西部断層が連動すると言っている学者がいるが、それにも関わらず、本当につなげなくてもいいのか。

A. 地震の関係について、さまざまな学者から見解が出ているのは承知している。  
当社は、原子力規制に則って審査を受けているため原子力規制委員会の判断を仰ぎたい。

○ 閉会の挨拶

本日は貴重な意見を頂き感謝する。

説明したダクトの腐食問題の再発防止対策について、今後とも着実に取り組んでまいります。

また、現在、発電所の構内で実施している各種の安全対策工事についても、確実に実施し、少しでも安全が向上するよう努めてまいります。

基準地震動の評価を受け、3号機の適合性審査の申請についても、できるだけ早期に申請できるように準備を進めている。準備ができ時期が参れば、皆様に改めてご説明する機会を設けたい。

以上